

# 議 事 要 旨

会議名	令和 2 年度佐用町地域公共交通会議
と き	令和 2 年 7 月 29 日（水） 14 : 00 ~ 16 : 00 頃
と ころ	佐用町役場本庁西館 2 階防災会議室
会議内容	<p>出席について 別添委員名簿のとおり 委員総数 31 名 出席 25 名 委任状出席 5 名 合計 30 名出席 欠席 1 名</p> <p>1、開会</p> <p>2、会長あいさつ（会長 佐用町長 庵途 典章） もうすぐ梅雨が明けるが、昨日も東北で災害が発生し、九州の方は災害復旧で大変な状況である。新型コロナウイルス感染症も未だ収束の見込みはなく、感染者が再び増加してきている。龍野健康福祉事務所管内で 1 人、赤穂でも 4 人感染者が出た。ウイルスが消えることはなく、with コロナへの対応が必要になってきている。学校は 4 月から 5 月にかけて休校、また外出も自粛されている。鉄道等交通機関の利用も依然減少したままである。国は新型コロナウイルス対策として、国民 1 人 10 万円、また企業等にも様々な支援をしているが、莫大な予算が必要であり、いつまでも続かない。兵庫県内では、今のところ重傷者は 0 人で、中等症者はいるが、軽症か無症状が大半を占めている。通常の患者が減って、経営が困難な病院もある。新型コロナウイルスをないがしろには出来ないが、いつまでも待てない。リスクを減らし対策をとったうえで、経済活動を行っていくことも必要である。学校も始まっている。現在の公共交通の維持も重要な課題である。</p> <p>また、今年度からはタクシー運賃助成のチケット購入上限を 3 冊から 5 冊に拡充した。これで皆様のご要望にある程度お応えできていると思っている。</p> <p>3、協議事項</p> <p>(1) 令和元年度事業実績について 資料 1P. 1 ~ P. 7</p> <p>(2) 令和 2 年度事業について 資料 2P. 8 ~ P. 10</p> <p>(3) コミュニティバス及びさよさよサービスにおける自家用有償旅客運送の更新登録申請について 資料 3P. 11 ~ P. 34</p> <p>(1) ~ (3) について別添資料により事務局から説明</p> <p>【質疑、ご意見等】</p> <p>○江川ふれあい号について、運行が始まってから、江川地区のタクシーの利用者が大きく減少している。利用がほとんどなく、あるのは夜中の緊急時に病院への搬送等。月に 2 人ほどである。今のままでは、タクシー事業者は江川地区の方との接点がなく、何も情報が入ってこない。現在の 1 日 4 往復を 2 往復に減らしてほしい。また、防災無線での放送について、訃報情報が放送されていない地域があるため、全域で放送して欲しい。</p> <p>回答) 江川ふれあい号については、地域の方が地域の課題を掘り出し、地域活性化に向けて取り組みを始めたもので、さよさよサービス等とは始めた理由が異なる。江川地区はこの取り組みにより活性化されており、町としても引き続き見守りたいと思っている。また、公共交通事業者の協力により、交通空白地を減</p>

らし、体の機能が低下されている方等の利用も含めて、様々な方が外出できる環境を整備できている。このバランスのとれた公共交通体制を維持していきたいと考えている。

訃報の放送については、放送して欲しい側と、放送して欲しくない側の両方の意見があり、合併以前の旧町での取り扱いを引き継いでいるのが現状。

○職のない若者を運転手として雇用する等の雇用促進について行政の力添えを頂きたい。

回答) 昨年度もバス協会様より、「運転者求む」というチラシをご紹介いただいた。現在はタクシー事業者に限らず、バス事業者等についても運転手不足が深刻な状況と思われるが、町としてもPR等の方法により、できる限り協力したいと思う。情報を頂きたい。

○タクシー運賃助成事業について、毎日買い物に出られる方もいる。5冊では足りないため、さらに増やしてほしい。

回答) 今年度4月に、購入上限冊数を3冊から5冊に拡充したばかりである。まだどれくらいの利用実績となるかも分かっていない。財源の課題もあるので、しばらくは様子を見たい。

○バス事業について、運転手の健康状態を管理できているのか？

回答) コミュニティバスについては、委託してはいるが基本的なチェック項目を設けて、毎朝対面で実施している。契約書にも明記されている。さよさよサービスについても同様に社会福祉協議会の担当者がチェックしている。

江川ふれあい号は、江川地域づくり協議会の会長とセンター長で毎日チェックしている。乗客が触れた個所の除菌も実施している。

○自家用有償運送の制度改正が6月にあった。タクシーやバス事業者等と地方公共団体が協力して自家用有償運送を運行する、事業者協力型の自家用有償運送制度ができた。旅客運送のノウハウを持つ事業者が自家用有償運送に関わることで、安全性を高めることができる。施行はまだ先であるが、今後はこういった方法を活用する手もある。

#### 4、その他

関係機関からの情報提供など

○JR 西日本よりお知らせ

JR 全体の利用状況は、利用者数が前年度比6割から7割で、3割から4割減少している。短距離での利用は回復してきているが、長距離での利用が戻らない。

6月までは回復傾向にあったものが7月以降は低迷しており、最近では再び減少傾向にある。

7月の4連休には中・長距離の利用があるかと思っただけ、非常に少なかった。

イベント実施は難しいが、ハイキング等のパンフレットによるPR等をしていきたいので、地域の方のアイデアと情報が欲しい。

厳しい経営状況にある鉄道路線の維持のためには、見直しが必要などところがある。路線を廃止するためではなく、維持するためにはダイヤの減便でなくとも、設備等の縮小や撤去を検討する必要がある。持続可能な鉄道路線とするためにご協力いただきたい。

○智頭急行株からのお知らせ

現在、定期的な消毒や、常時換気に努めている。今後は、車両の抗菌処理をJRと連携し、実施する予定。感染拡大防止に努めながら、利用促進をしていきたい。

○兵庫陸運部からのお知らせ

新型コロナウイルス感染症対策費の2次補正で138億円が措置された。しかしながら、鉄道、バス、タクシー、船舶等の公共交通全体で138億円であり、非常に少ない金額である。

現在、市町においては国からの臨時交付金があり、これを活用し、少しでも公共交通機関の支援に充てて頂きたい。

現在、タクシー事業者やバス事業者が新型コロナウイルスに関する車内等の安全性をPRするパンフレット等の作成や、ホームページへの掲載がされている。こういったものをご覧いただき、公共交通を利用することによる新型コロナウイルス感染のリスクについて正しく理解してもらいたい。

○JR西日本に対するお願い

姫路から新見まで直通で行けるようにしてほしい。姫新線沿線住民の方から、乗り継ぎがあるために姫新線を利用しないという声がある。

回答) 熱い想いは承りました。

回答) 町としても増結や乗り継ぎ時間の短縮等について要望しているが、なかなか実現には至っていないのが現状。

5、閉会（副会長 富山大学准教授 猪井 博登）

この新型コロナウイルス感染症が拡大している時期に、移動する必要がある方のために何をしないといけないのか。移動について、町は外出をさせようとしているのではなく、外出したい人が外出できるように、自家用有償運送や支援をしている。それにはお金が必要になる。このお金は税金であり、住民が支えているということと同義である。タクシー運賃助成制度の購入上限の拡充については、どれくらい必要かの見極めは難しい。この見極めには、この制度がどういう利用を支えているのかを考えなくてはならない。質疑応答で話のあった江川ふれあい号の件についても、どういう利用をされているのかを考えて検討しなければならない。江川ふれあい号の場合は、生活に必要な移動のために利用をされている。これがなくなると、生活できなくなり、結果的に住民がいなくなってしまう。何のための交通手段なのか、支えなのかについて、利用者数だけでなく利用の種類や目的等が分かるように説明しないとけない。現在の新型コロナウイルス感染症の拡大状況下では、特に考える必要がある。